

三十年ひと昔



北部檜山医師会
道南ロイヤル病院

鈴木孝治

新年あけましておめでとうございます。今年は戌年、私は年男だったのでですね。寄稿のご依頼を頂いて、もう干支5周目、還暦を迎えたのだと実感しました。

大学を卒業したのは三十年あまり昔、昭和59年3月。西暦でいうと1984年です。ジョージ・オーウェルの描いた小説『1984年』のような管理社会でなかったのは確かですが、当時の社会環境がどうだったのか、よく思い出せません。

現在は分からないことがあると、キーワードをいくつか入れてパソコンで検索が普通でしょう。例えば当時のパソコンはどんなものだったか？ 早速検索すると、初代Macintoshが発売されたのが1984年だそうですよ。アップルコンピュータ社は小説『1984年』に絡めた宣伝をしていて、その映像を後に見ました、そういえば。

その後個人用はデスクトップからノートになり、今やかつての「パソコン」でこなす業務はタブレット端末やスマホでも充分となりました。趣味はコンピュータだ、という人が当時は多々いましたが(もちろん現在もおられるとは思いますが)、パソコンが事務機器的に普及して行った頃、急速に趣味対象から消褪していきました。

クルマもそうですね。最近の若い人はクルマに興味を持たないどころか、都市部では不要として免許すら取らない人も多くなっているようです。最強の公的身分証明書である運転免許証を持たない社会人が、もし今後増加したらどうなるのでしょうか。個人の識別、認証は顔認証が普通になっていくのでしょうか。顔認証は最新のスマホでも、もはや可能な時代になりました。1984年当時にはSFでしか考えられないようなことが今や身近になって、でも「卒業の頃よりすごく便利な世の中になった」と実感しないのも確かなのは如何に。

今更言うまでもなく、人間の欲求に際限はありません。何が実現されても満たされることはなく、どんな革命的な事柄もいつか日常生活に浸透し、人々はその恩恵を忘れ興味を示さなくなるのが必至。物質文明が決して人間を真に豊かにしないと、昔から言われてきたことでした。次に干支が一回りする頃には、一体何が実現するでしょうね。還暦を迎えて、今年からは物欲に走ることなく、ひたすら自らの健康維持に邁進することにします。健全なる精神は健全な何とやら。まずは正月の酒量セーブから、今年的好スタート？

泌尿器科における 外科教育の現状と展望



北海道大学医師会
北海道大学大学院医学研究院 腎泌尿器外科学教室

篠原信雄

月日が経つのは早いもので、大学を卒業して34年になります。卒業当時、右も左も分からない新米医師だった自分が、いま北海道大学大学院医学研究院腎泌尿器外科学教室の教授となっているとは…。その当時は全く考えもつかないものでした。ただ、ここに至る道において数多くの先輩医師、特に恩師である小柳知彦名誉教授、野々村克也名誉教授の薫陶のおかげと思い、心から感謝しております。現在は、北海道大学大学院医学研究院において吉岡研究院長のもとで教育担当の副研究院長としても仕事をしています。

医療・医学の進歩、社会の変化に伴い、泌尿器科手術を取り巻く状況は大きく変化してきています。術式の多様化という観点からは、腹腔鏡下手術の一般化、ロボット支援手術の実施機会の増加が挙げられます。社会の変化という側面からは人口の高齢化とともに手術実施年齢も上昇し、高齢者に対しても高侵襲手術の実施が求められると同時に、医療安全の向上、医療コストの低減化も要求されるようになっていきます。そのような状況で、大学病院にもさまざまな役割が期待されるようになっていきます。そのひとつが、研修医、若手専門医に対する外科教育の充実です。当科では以前から術前カンファレンスにおいて手術の目標設定を明確化し、術後カンファレンスでは術中ビデオを用い、さまざまな局面における問題点のあぶり出しを行い、手術成績の向上のための指導を行ってきました。一方で、術中教育については術者個人の資質に基づくところが多く、いわゆる“See one, Do one, Teach one”の形で実施してきました。

しかし、腹腔鏡下手術やロボット支援手術の導入に伴い、種々のシミュレーション教育が可能となり、多くの研修医、若手専門医を対象にこれらを実施してきています。その成果は、腹腔鏡下手術技術認定医の増加から明らかですが、さらなる外科教育の発展のためには、より妥当性・信頼性の高いシミュレーショントレーニングの開発、実践を行う必要があると思っています。これらを通して、優秀な次世代の泌尿器外科医を多数輩出することが私の使命であると考えています。これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

人間にとって最大の発見、最大の驚きは、「自分には無理だと思っていたものが、実はできる」と気づくことだ。

ヘンリー・フォード